

地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学Ⅰ」の参加者アンケートの分析

Analysis of participants questionnaire on seismological workshop “Seismology in Geopark activities I”

*平松 良浩¹、松原 誠²、中川 和之³

*Yoshihiro Hiramatsu¹, Makoto MATSUBARA², Kazuyuki Nakagawa³

1. 金沢大学、2. 防災科学技術研究所、3. 時事通信社

1. Kanazawa University, 2. NIED, 3. Jiji Press

はじめに

日本各地のジオパーク活動の支援ならびに地震学の知識の普及、学術研究の促進を目的として発足した日本地震学会ジオパーク支援委員会では、ジオパーク専門員に対する勉強会として、地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学Ⅰ」を昨年度に実施した。さらに参加者に対してアンケートを実施し、地震学習会に対する評価や今後のテーマについて調査を行なった。本講演ではそれらについて紹介する。

地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学Ⅰ」

日本地球惑星科学連合2017年大会期間中の5月22日に地震学習会を実施した。(1)「ジオパーク活動で使える地震学 –地震観測データの活用方法–」（防災科研：松原 誠）および(2)「日本周辺の沈み込み帯における海底地形」（海上保安庁：西澤あずさ）と題した講演が行われ、地震観測網、地震データや震源分布図に関する解説、地震データの展示例、各ジオパーク内の地震観測点の分布や、日本周辺の3D海底地形図に見られる海底地形と地震の関係や海上保安庁の各管区の海の相談室の利用やwebで公開されている海洋台帳に関して解説された。地震学習会には、事前申込のあった10ジオパークの他に、飛び込みで8ジオパークおよびJGN事務局から計32名の参加者があり、紹介されたデータの具体的な利用法など活発な質問がなされた。

参加者アンケートによる地震学習会の評価と要望

講演内容の理解度や今回紹介されたデータの活用事例の有無、開催時期や時間の長さ、今後のテーマへの要望に関して、参加者に対してアンケート調査を実施した。講演内容及び各ジオパークにおける地震観測点や海上保安庁が所有するデータの活用方法については、概ね理解でき、今回紹介されたデータについても活用したいという意見が多かった。開催時期については、日本地球惑星科学連合大会開催期間中を望む声が多かった。時間の長さについては、ちょうど良いとの意見と短いとの意見に分かれ、参加者の予備知識が反映された結果と推測される。今後のテーマについては、地震防災、地震教育、地震活動や日本列島の地震学的構造など多様な意見があり、地震学習会を継続的に実施する必要性があると考えられる。

謝辞：地震学習会の実施にあたり、日本ジオパークネットワーク事務局に多大なるご協力をいただきました。記して感謝します。

キーワード：地震、海底地形、震源分布

Keywords: Earthquake, Seafloor topography, Hypocenter distribution